

中学生のメッセージ2014

第36回少年の主張三重県大会



デザイン画：桑名市立光風中学校 美術部



公益財団法人 三重こどもわかもの育成財団

はじめに

「中学生の私が残した作文が、その後も私の支えとなった・・・」

財団の設立10周年を記念してお招きした3年前の「中学生のメッセージ」三重県大会最優秀賞受賞の王崑吉さんが、このように会場の中学生に語りかけてくれました。

8月23日、桑名市民会館での最終選考14人の発表後のことです。

王さんはこう続けます。「皆さんにとっても、この作文が自分に大切なものをもう一度思い出させてくれて、支えとなる時が来ると思います。」

そう、中学生時代に一生懸命書いて推敲し残した作文は、中学生という多感で初々しい素敵な時間とその時の自分の感性を思い出させてくれる宝物になるのですね。

今年も10,351人もの中学生が応募してくれましたが、皆さんが中学校を卒業してからもその当時の自分を誇らしく思い返し、糧となりうる作文を残してくれたこととなります。こうした時間を超えた視点を示してくださった王さんに感謝です。そして、主催者としてこの「中学生のメッセージ」をこれからも大切に育てていかなければならないという思いをより強くした第36回大会となりました。

また、今回は、地元の桑員地区青少年市町民会議関係者の皆さまによる実行委員会が、地元の企業様などから応援メッセージ（43ページで紹介）を集めてくださるなど、これまでにない広がりをもたらされました。大人が「やるぞ」と決めた時に発揮されるパワーはさすがでした。

素晴らしい発表を聞かせてくれた14人の中学生、そして司会、受付、案内をてきぱきとやり遂げてくれた地元中学生、さらには心躍るような演奏を聴かせてくれた地元中学校吹奏楽部、デザイン画に応募してくれた地元中学校美術部、皆さんの澁刺とした行動が「地域のおじさんやおばさん」を元気にしてくれましたし、皆さんも「地域のおじさんやおばさん」の温かいまなざしをしっかりと感じてくれたのではないかと思います。

毎年何かしらの発見や発展のある「中学生のメッセージ」ですが、また、来年も新たな感動が生まれますよう尽力してまいりますので、より一層関係者の皆様方のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年2月

公益財団法人三重こどもわかもの育成財団

理事長 太田 栄子

平成 26 年度中学生のメッセージ 2014

(平成26年8月23日 桑名市民会館)



発表者と審査委員の皆さん



主催者から大会挨拶



最優秀受賞者は全国大会へ出場



桑名市教育委員会 伊藤
教育長から歓迎挨拶

目 次

◆大会発表作品

1 最優秀賞

「自分なんて・・・」と思わないで。東員町立東員第二中学校 2年 出口 緑彩・・・ 1

2 優秀賞

僕のおじさん 桑名市立陽和中学校 2年 加藤 志門・・・ 3

情報社会の中でのいじめ問題 四日市市立笹川中学校 3年 中川 嵯貴・・・ 5

「Japan」から「日本」へ 津市立久居東中学校 3年 森本 樹・・・ 7

3 優良賞

平等な社会へ 東員町立東員第二中学校 2年 安藤 舞・・・ 9

国民としての責任 皇學館中学校 3年 井村 舞瑠・・・ 11

大気汚染について思うこと 名張市立名張中学校 2年 植松 宥香・・・ 13

あたりまえを考える 名張市立赤目中学校 3年 岡松 里奈・・・ 15

祖父が教えてくれたこと いなべ市立員弁中学校 3年 竹中 新生・・・ 17

広げよう 伝えよう 鈴鹿のお茶 鈴鹿市立鈴峰中学校 3年 田中 翔英・・・ 19

私と認知症の人と社会のしくみ 四日市市立桜中学校 2年 田端 桃子・・・ 21

人に頼るって？ 津市立朝陽中学校 3年 西川 有紀・・・ 23

高齢者の方について いなべ市立北勢中学校 3年 松葉 優奈・・・ 25

携帯について思うこと 熊野市立有馬中学校 1年 湊 真優・・・ 27

4 審査委員の講評・・・ 29

5 先輩からのメッセージ（財団設立10周年記念として招待）・・・ 35

◆大会概要及び審査基準

1 応募の状況・・・ 37

（1）応募者数 （2）選考の過程

2 審査基準及び審査委員・・・ 38

（1）審査基準 （2）審査委員

3 地域優秀賞受賞者一覧・・・ 39

4 学校奨励賞受賞校一覧・・・ 40

◆大会メモリアル（写真集）・・・ 41

◆中学生への応援メッセージ・・・ 43

◆協賛企業・団体紹介・・・ 44

◆参考資料

中学生のメッセージ 2014（第36回少年の主張三重県大会）実施要項・・・ 45

平成26年度内閣総理大臣賞の紹介〔少年の主張全国大会～わたしの主張～〕・・・ 47

※大会発表者の作品は、誤字・脱字以外は原文のまま掲載しました。

大会発表作品



最優秀賞

「自分なんて・・・。」と思わないで

東員町立東員第二中学校 2年
でぐち みさ
出口 緑彩

「自分なんてどうでもいい。」「誰からも必要とされていない。」と思っている人はいませんか？もしくは誰かに「必要ない。」と言ったことのある人はいませんか？私は「自分なんて…」と思ったことがあります。でもそれは、間違っていたのです。なぜなら人は皆、誰かに必要とされ、想われて生きているからです。

私が中学一年生の頃の事です。仲の良かった子と急に上手くいかなくなり、学校でも自分だけ浮いていると感じていました。それでつい友達に「私なんて必要とされてないし、どうでもいいんだよ。」と言ったことがありました。その時の私は誰かのためになるようなことをしていたつもりもなかったし、ほめられるようなことをしているつもりもありませんでした。だから余計に自分に自信をなくしていたのかもしれません。でも、その友達は私にこう言ったのです。「あなたがいつも話し掛けてくれるから毎日楽しく過ごせているんだよ。だから、あなたを必要としている人はここにいるんだよ。」と。私は、それを聞いた瞬間に心の中がとても温かくなりました。それに重い荷物をおろした時のように心が軽くなりました。「自分なんて…」という思いがどれほど自分を苦しめていたのかがよくわかります。「私は必要とされている。」ということに気づかせてくれたその友達に今でもとても感謝しています。

そして今。あの頃の私のように「自分なんて…」と思っている人がいることに気づきました。

例えば「自殺」です。いじめを受け、自分の価値を否定され、苦しみ悩み、そして自ら命を絶ってしまう人もいます。もし「あなたがいてくれるから。」と言ってくれる人がいたら、違った未来があったのかもしれません。また、私の周りでも「みんなに迷惑だと思われるんじゃないか。」と思い、悩んでいる人もいます。先日、私の友達が「自分なんて誰からも必要とされていない。」と言っていました。私は中学一年生だった頃の事を思い出しました。もし、あなたの友達がこんな風に言っていたらあなたはなんて言いますか？私は「あなたがいてくれるから楽しいんだよ。」と心を込めて伝えました。私にとって、その子と話したり会えたりすることはとても楽しいし、嬉しいです。

「よし、今日もがんばろう。」と思うことができます。その子がいてくれることが私にとってはとても重要なことであり、そして幸せなことなのです。毎日登校することや、話すこと。自分が当たり前に行っていることが誰かの助けや希望、勇気になっているのかもしれません。そうすると「自分自身がここにいることが誰かの幸せにつながっているのかもしれない。」と思えてきませんか？そう思うと、誰からも必要とされていない人なんていないのです。

● 部活動や学校外活動	陸上部
● 好きな科目	音楽
● 好きなことや好きなもの	人を笑顔にすること
● 将来の夢	女優・タレント

私は今、室長をやっています。そして、一つ目標としていることがあります。それは、ひとりひとりが輝けるようにすることです。クラス、学年、学校、そんな集団の中でこそみんなが輝くことができるのです。あいさつやそうじ、たくさんチャンス場はあります。ひとりひとり、人と違ったいいところは必ずあるのです。そして私はSHRの振り返りで「〇〇さんのこんなところがよかった。」とその人のいいところを本人にもみんなにも伝えています。そうすることによって本人も自信がつくと思うし、周りもひとりひとりのいいところが見えてくると思います。「自分は必要とされている。」ということをわかってもらえるように、私はたくさんのいいところを見つけていきます。「自分なんて…」と思う人を私の身近なところからなくしていきます。そして「自分なんて…」と思う人がいなくなり、みんながいいところを出して輝ける集団を私はつくっていきます。





優秀賞

僕のおじさん

桑名市立陽和中学校 2年
かとう しもん
加藤 志門

僕の家族は、両親と妹、祖父母、曾祖父母そして、母の弟である、「おじさん」もいる。今時めずらしい9人の大家族です。おじさんを家族で助けるために、みんなで暮らしています。

おじさんのあだ名は「おじ」です。おじは35才で、自閉症という障がいがあります。自閉症は、言葉、社会性やコミュニケーション能力の発達に障がいがある、先天的な脳の障がい、原因はまだわかっていません。自閉症の特徴として、おじが得意な事は、一回しか会った事がない人の名前もずっと覚えていたり、自分が行った事のある場所、自分がした失敗などは、ほぼ100パーセント忘れず覚えているという事です。僕にはとてもまねが出来ない、おじのすごい才能の一つだと、いつも感じさせられます。

おじは、僕の友達が家に遊びに来てくれるといきなり大きな声を出したり、ニコニコしながら顔を近づけたりします。おじは、ぼくの友達が来てくれて嬉しいのですが、うまくその気持ちを伝えられなかったり、「いらっしやい」と言えないので、大きな声を出して喜びを表します。そんな時、僕は少し恥ずかしいし、初めて来る友達は、びっくりします。でも、おじのことを説明すると、きちんとわかってくれて、次からおどろきません。温かい友達ばかりです。

そんなおじですが、大きなショッピングセンターの農産部で、11年間も仕事を続けています。野菜を洗ったり、テープを巻いたり、袋に入れる仕事です。とても真面目にきっちりと仕事をして、おじがいないと職場の人が困るくらいだそうです。しかし、おじはそこでも、何度も余分な事をしてしまって注意されたり、ちょっとしたトラブルを起こしたりしています。それでも職場の人達は、障がいのあるおじの事を差別せずに、理解して、辞めさせる事なく、見守りながら仕事をさせてくれています。おじが、頑張っているのを、知ってくれているからだと思います。

本当にまれな事ですが、おじはパニックを起こすことがあります。自分のやりたい事が出来なかったり、思い通りにならなかったり、自分が食べようと思っていた物を、他の家族に食べられたり、理由は色々です。大声を出したり、お皿を何枚も割ってしまったり、壁に、自分の頭をぶつけたりしてしまいます。僕と妹は、その時は二階にかくれます。少しこわいからです。母達は半分泣きながら、おじを落ち着かせようと一生懸命です。パニックを起こすと、とても困りますが、そんな時は、おじにも必ず理由があります。だから、おじになる

● 部活動や学校外活動	陸上部
● 好きな科目	理科
● 好きなことや好きなもの	読書・空手
● 将来の夢	警察官

べくパニックを起こさないように、家族は先回りして考えて、行動するようにしています。おじがいて、大変だなと思うこともありますが、おじのおかげで、弱い立場の人の気持ちもわかるようになって、家族も団結しています。

僕達家族は、このようにみんなで、おじを助けていますが、特に祖父母と母が頑張っています。僕も母達の力となって、ずっとおじを助けていきたいと思います。

おじが、今までよりも快適で、不安や不便を感じない環境、差別のない社会で暮らしていけたら、とても嬉しく思います。おじも、安心して暮らせる世の中になって欲しいと思います。僕はおじのおかげで、障がい者やその家族の苦労や気持ちがよくわかります。だからこれからも、この僕の環境を生かして、障がい者への理解が広がるように、みんなに発信していきたいです。そして、障がい者も健常者も一緒に心地よく暮らせるように、偏見や差別がなくなるように、出来る事から少しずつ頑張ってやっていきたいと思っています。そして、この僕の思いを、「おじ」にも伝えたいです。





優秀賞

情報社会の中のいじめ問題

四日市市立笹川中学校 3年
中川 嵯貴

私達は今、携帯電話という便利なツールを用いて、家族や友達とコミュニケーションをとることができます。また、メールや通話、インターネットなどを利用していろんな人と知り合うこともできます。その中でも「LINE（ライン）」・「ツイッター」・「フェイスブック」など、アプリケーションを用いたコミュニケーションを利用する人が増えてきました。私も「ライン」というアプリケーションを使って、友達と連絡をとったり、話したりしています。

とても便利なアプリケーションですが、知らない人や友達でも、直接会って話すわけではありません。だから、深く考えずに相手に言葉を送って相手を傷つけてしまうこともあります。最近、「ライン」などのアプリケーションが原因の事件がありました。一人の子に対し複数の子で暴力し殺害してしまった事件や、暴言によって自殺に追い込んでしまったというとても悲しい事件です。SNSによる友達関係のもつれから、友達の友達に呼びかけ、暴力をふるうという行為にいたったそうです。複数のクラスメイトからのメールによるいじめに耐えられず自殺という手段を選んでしまった人もいたそうです。私の周りではこの様な大きないじめはありません。しかし、インターネットによる顔のみにないいじめは多く存在します。考えるだけで恐怖を感じます。

これらの事例は、面白半分で一人の子を仲間はずれにしようと呼びかければ、簡単に仲間はずれにできることを意味しています。このように、アプリケーションを使ってのいじめが増えてきました。そのようなことを見つけた時、私自身どう対処したらいいかを考えてみました。そんなことをしないように呼びかけることや、仲間はずれにされる友達を守ることが私にできることだと思います。そのためには友達関係を学校や家で、きちんと作っておくことが大切だと思います。だめなことをだめだと言える友達関係を作るためには、相手をきちんと知ることが大切です。学校の友達やダンスの友達、小学校時代の友達など、たくさんの友達と顔の見える人間関係を築いていくことが、いじめを防ぐ第一歩になるのではないのでしょうか。

また、アプリケーションの使い方を、もう一度考える必要があると思います。書き込む前にもう一度考えて相手がどう思うか、いじめにつながらないかを、しっかりと考えていかなければならないと思います。ささいなことが大きなもつれになり、事件へと発展してしまうこともあります。便利なツールは、簡単にいじめへと発展するツールでもあるのです。

● 部活動や学校外活動	家庭部・ダンス
● 好きな科目	社会
● 好きなことや好きなもの	ダンス・読書・歌うこと
● 将来の夢	先生

このことを含め、安易にアプリケーションを使用せず、しっかりと考えてから利用したいと思います。

顔がみえる友達関係の成立した人と、アプリケーションを利用します。また、自分が書き込んだものが相手にどのような影響を与えるかを想像します。そして、相手を傷つけない言葉を選び抜く力をつけていきます。想像力と語学力の習得によって、回避できる問題は数多くあるのです。

これからも、いじめは簡単に生まれることをしっかりと意識し、様々な情報のツールを効果的に利用していきたいと思います。





優秀賞

「Japan」から「日本」へ

津市立久居東中学校 3年
もりもと いつき
森本 樹

皆さんは、「Cool Japan」という言葉を知っていますか。「Cool Japan」とは、他国で評価されている日本の技術や文化のことをいいます。今、日本に本社がある多国籍企業の多くが「Cool Japan 戦略」を立ち上げ活躍されています。また、そのような企業に対しては、国も支援をしています。その他にも、最近世界無形文化遺産に登録された和食も「Cool Japan」の一つだと思います。

このように、国際化へ進む世界の中で、「Japan」をアピールしていくことは、重要なことだと思います。なぜなら、「Japan」を多くの人に知ってもらうことによって、日本を訪れる外国人が増え、結果的に日本が成長していくと思うからです。

ところが、今「日本」は、外国人を受け入れる環境が万全ではないと思います。具体的に言うと、外国人を差別したり、敬遠したりする人が「日本」にはいるということです。

僕は小学校4年生のとき、学校で嫌がらせを受けていました。靴が左右逆にされていたり、机が別の所へ移動させられていたりしました。そんなことが一ヶ月ほど経ったある日、ある子が僕のところへ謝りにきました。なぜそんなことをしたのか尋ねると、

「外国に住んでいたと聞いて、なぜか嫌がらせをしてやりたと思ったんだ。外国に住んでいたから、自分たちとは違うって思ってしまったんだ。本当にごめん。」と、答えてくれました。

僕はこのことを聞いて驚きました。確かに僕は、4歳から10歳までの間、中国に住んでいました。しかし、日本だろうが外国だろうが関係ない、どこに住んでいても同じ人間だと思っていたので、僕に嫌がらせをした理由については、とても驚きました。そして、初めて外国人差別を知り、差別を無くしていこうと思った出来事でもありました。

このような話は僕たちの中だけで起こっていることではないと思います。実際に外国人に道を尋ねられても知らん振りをする大人や、道を歩いている外国人に異別の目を向けている大人などを、これまでに何度も見たことがあります。時には、一緒に歩いている自分の子どもにも分かるようにして、外国人を避ける大人を見たことがあります。とても残念で腹が立ちました。

こうした差別を外国人はどう思っているのか、尋ねてみたことがあります。僕が通う英会話塾の外国人の先生は、こう答えてくださいました。

「君たちの思っているよりも、日本人の外国人に対する差別は深刻だよ。君たちは無意識かもしれないけれど、僕たちには差別だと思えることがあるんだ。何しろ、差別を受けている側なんだからね。」

● 部活動や学校外活動	剣道部
● 好きな科目	理科・社会
● 好きなことや好きなもの	寝ること
● 将来の夢	人の役に立てるようになる

僕はその言葉を聞いて、僕たちが考えているよりも、もっと真剣にこの問題に取り組まなければならないと強く感じました。

たしかに、東京や京都などの観光スポットでは、こうした差別は少なくなっているかもしれませんが。しかし、東京や京都などは「日本」全体ではありません。「日本」全体が差別や偏見を無くしていつているとは言い難い状況です。

2020 年、東京で夏季オリンピックが開催されることが決まりました。僕はその時、21 歳で、大人ですが、今思っている感情を忘れずに、おもてなしをしたいです。

また、国語や英語はもちろん、社会や道德等の勉強を、今からしっかりと見につけて、将来「日本」を紹介できる人になりたいです。

しかし、差別というのは、一人の力だけでは、無くすことができません。そこで、皆さんの力をお借りしたいのです。たとえ何歳であっても、国籍が違って、性別が違って一人の力なのです。一人でも多くの方が、この話を、今の現実を忘れないでください。目をそらさないでください。未来を変えられるのは、私たちだけです。

どれだけ良い技術を持っても、どれだけ素晴らしい文化を持っても、それはアピール用の「Japan」でしかありません。しかし、日本人の本当の心を加えれば、「日本」に変わります。

さあ、皆さんで創ろうではありませんか。

私たちの国、「日本」を。





優良賞

平等な世界へ

東員町立東員第二中学校 2年

あんどろ まい
安藤 舞

「どうしてこの子だけ肌の色が違うんだろう。」

これが、初めて黒人の子を見た時の私の率直な感想でした。

その黒人の子と出会ったのは私が保育園に行っていた頃のことです。その男の子は保育園の中でも一番背が高く、肌が黒く、日本語を片言で話していたので、みんなから不思議に思われる存在となってしまいました。それからどんどん月日は経ち、仲間はずれがエスカレートしていきました。保育園児は素直なもので、平気で相手がきずつくような言葉をズバズバと言っていきます。そのたびにその男の子はうつむいて、一人でどこかに行ってしまうのでした。

ある日、私が保育園から歩いて帰っていると後ろから息を切らして走ってくる音がしました。振り返るとそこには額から汗がふき出しているあの男の子がいたのです。

「これ。」

と言って渡されたのは、私が毎日保育園に持っていくお気に入りの水筒でした。私の忘れ物をわざわざ届けてくれたのです。その瞬間、

「見た目は全く違うけど、中身は私達と同じじゃないか。」

と思いました。それと同時に、今まで仲間はずれにされている場面を何度も見てきたのに見過ごしてきた自分、「自分とは少し違う人間」と勘違いしていた自分が情けなく恥ずかしく思えました。

それからというもの、私はその男の子とたくさん話すようになりました。そして、それを見た子達が、

「何か楽しそう。一緒に遊びたい。」

と思ってくれて、その男の子はたちまち人気者になり、仲間はずれもだんだんなくなっていました。その男の子の幸せそうな表情が今でも忘れられません。

しかし、世界では今私が話したエピソードのようにうまくはいっていません。白人から黒人への人権差別問題が各地で起こり、何の罪もない人々が苦しまなければいけない残酷な現状が続いています。

まず、長い歴史の中で黒人の人は「野蛮」「知性が低い」「感情がない」と白人からみなされていました。つまり、黒人の人を動物扱いして卑下していたのです。もちろん、黒人の人は野蛮ではないし、知性も感情もある立派な人間です。なのに見た目だけで決めつけるな

● 部活動や学校外活動	陸上部
● 好きな科目	体育
● 好きなことや好きなもの	読書・DVD鑑賞
● 将来の夢	看護師

んておかしいとは思いませんか。現在も地球のどこかで何の根拠もない理由でだれかが苦しんでいると思うと心が痛くて仕方がありません。

しかし、こんな悲しい世の中に希望を与えてくれた人がいました。サッカーのダニエウ・アウベス選手です。サッカーの試合中に観客席からバナナが投げこまれた時に、アウベス選手はそのバナナを食べたそうです。こんな人種差別的行為にも怒らずに対応し、苦しんでいる人達に勇気を与える行動をしてくれました。そしてこの差別に抗議する行動は彼一人では終わりませんでした。私もアウベス選手や彼と行動を共にした人々のように正義の通った大人になりたいです。

この人種差別問題を通して私は思いました。差別をしている人は何か勘違いをしているのではないのでしょうか。私も初めは勘違いをしていました。でもどんどん接していくうちに相手の良い所がたくさん見えてきます。地球にはたくさんの人がいるけど一人一人顔や性格が違って当たり前なんです。金子みすゞさんの詩にもあるようにみんな違ってみんないいんです。大切なことは、違うことで距離をおくのではなく、違うからこそ理解し合う努力をすることではないのでしょうか。これから生きていくうえで私はもっといろいろな人に会う機会があると思います。私はその時、絶対に差別をしない、そして相手を理解・尊重していくことをここに誓います。





優良賞

国民としての責任

皇學館中学校 3年
いむら まいる
井村 舞瑠

私は、最近まで全く「選挙」に興味がなかった一人です。私から見ればまだまだ選挙権はないし、私が考えてもどうにもならないものだと思っていたからです。

しかし、「本当にそうなの。」と疑問を持ち始めたのです。中学生になり新聞を読んだりニュースを見たりするようになって。

確かに私たちはまだ子どもで本当に正しい選択ができるわけではありません。きっと迷ってしまいどうしたらよいのか悩むと思います。でも、もし今「あなたは選挙に興味がありますか。」と聞かれたら、胸をはって「あります。」と答えられます。

それでは、今の日本の選挙権のある20歳以上の人もそうなのでしょうか。もしかしたら小学生の頃の私のような人が多いのではないのでしょうか。

なぜなら、日本の選挙において近年みられる現象として、約60パーセントから50パーセントの投票率しかないのです。これは、とても大きな問題ではないのでしょうか。

よく選挙速報で「〇〇党圧勝で、議席数を取りました。」という報道が流れますが、よく考えたら国民の半分の投票で、またその中の何割かの票しかないのです。これは本当に正しいのでしょうか。

例えば、私の学年の人数は男女あわせて、56人、その半分は28人、その中の20人だったとしても、元のクラスの人数を考えたら、はたして圧勝といえるのでしょうか。後の人が反対の票をちゃんと投票すれば36人となって逆転したうえで圧勝となるのです。

私が、よく耳にする言葉があります。それは「どうせ行っても変わらへん。」というものです。実際に私の母は選挙当日、用事があり行けませんでした。私の父は以前に不在者投票をすませていました。母はそれをせず結局投票を放棄してしまったのです。きっと「忙しいのに私一人が行っても変わらへんやろ。」という思いが心のどこかにあったのではないかと思います。でも本当は私の考えたように逆転できる可能性があるのに何も行動していないのです。それはあくまでも仮説であるといわれるかもしれません。しかしやってみなければわかりません。それが選挙なのだと私は思っています。

「あなたの一票を」というフレーズは選挙のたびによく聞きますが、本当に大切な一票です。選挙権を与えられた大人は選挙に行くべきだし、使命なのではないのかと思います。選挙にもいかないで今の政治批判をする人がいると思いますが本当は文句を言う方がおかしいのです。それはどこでもいいと自分で決めたことだからです。また、選挙に行けばいいのか

● 部活動や学校外活動	バドミントン部
● 好きな科目	国語
● 好きなことや好きなもの	スポーツ観戦
● 将来の夢	臨床検査技師

というわけでもないと思います。自分の選んだ人が、党が、次の選挙までの何年間も私たちのリーダーとして町を県をそして国をひっぱっていくのです。そのリーダーを選ぶのは自分なんだという意識をしっかりとって投票すべきです。自分の生活を守りたいのはみんな同じです。そこでどれだけみきわめられるかがとても大切だと思います。

私は今年15歳になります。あと5年で20歳を迎えたとき、自分の意志で必ず選挙に行きこのまち、この国に住む一人の大人としての使命を果たしたいと思います。これからも選挙についての自分なりの考え方をもっていきたいと思います。

今、私たちの生活をよりよいものにするためにたくさんの人に選挙に興味をもってもらいたいと思います。政治家がつくる未来ではなく、大切な「あなたの一票を。」私たちの未来につなげてほしいと思います。





優良賞

大気汚染について思うこと

名張市立名張中学校 2年
うえまつ 植松 ゆうか 宥香

最近、中国の大気汚染のことをよく聞く。私が見たニュースでは、こんなことを言っていた。

「中国よりインドの方が大気汚染が深刻である。」

なぜ、中国よりもインドの方が深刻なのか分からないなと思ったとき、母が言った。

「最近、日本企業や海外企業は中国に工場を作るのを避けたりするみたい。それで今、工場を作って物を製造しているインドで大気汚染が広がっているんじゃないかな。今は、ベトナムにも企業が工場を作り始めているね。」

そういえば、インドは経済成長が著しいと社会で習った。今度はベトナムも大気汚染されてしまうかもしれない。ニュースでは、PM2.5とPM10の濃度は中国よりもインドの方が高いこと。また、大気汚染が原因で早死にする人が年間で最大約16,000人であると言っていた。写真には、今のインドの灰色の空模様が写っていた。

ニュースでよく聞くPM2.5やPM10はどんなものであるか分からなかったので調べてみた。

PMとは、工場などで出る粉塵や車の排気ガス、花粉のアレルギーのもとなどの有害とされる物質を大気汚染物質として言うときに用いられる呼び名だそうだ。2.5や10とは、大気中を浮遊している直径2.5や10マイクロメートルのものすごく小さな大気汚染物質のことだとも分かった。

そんな小さな物質が塵も積もって、灰色の空になっているなんて、いったいどのくらいの量が宙に浮いているのだろうと思うと恐ろしくなった。

私は雲のない青空が好きだ。だから日頃からよく空を見ている。それは見ていると、嫌なことがあっても「がんばろう」と思えてくることであったり、心がとても澄んでいくようで心地良いからだ。

だから、もし私が灰色の空の下で生活することになったら毎日空を見て、大気汚染の心配をし、心にもやがやかかっていくと思う。そして、気がめいってしまうだろう。

でも、中国やインドの大人や子ども、お年寄りのみんなは今も灰色の空の下で生きている。大気汚染の下で頑張っている。

私はみんなに「がんばれ」とエールを送りたい。そして、大気汚染がなくなりますようにと祈っていたい。

でも、祈っているだけでは何も変わらない。だから、私達に出来ることはないだろうかと考えた。

すると、日本企業や海外企業が中国やインドは安い賃金だからと言って、工場を作り、物を製造するときに出したのが大気汚染物質であるということが改めて分かった。大気汚染はその国だけの責任ではなく、世界の国々が関わって起きてしまうことだと思う。そして自分にも原因があると思うべき

● 部活動や学校外活動	オーケストラ部
● 好きな科目	数学
● 好きなことや好きなもの	読書・音楽鑑賞・ピアノ
● 将来の夢	世界中へ旅行に行く

だ。だから私は必要な物だけを買って大切に使っていきたい。そうすればほんの少しでも汚染物質が発生しないだろう。でも、誰かはこう言うかもしれない。

「それじゃあ経済はどうなるの。」

私は経済より環境だと思う。環境を大切にすれば経済は悪くなっていくかもしれないけれど、経済を進めたらこの大気汚染などの公害が広がって経済も成り立たないはずだ。でも極端な話で言えば環境を大切にしようとする、今あるガソリン自動車や工場などはなくなるといけなくなるかもしれない。それはけっして住みよい暮らしではないだろう。今の中国やインドは経済のことばかりを考えて進めてきたと思う。

だから私は今の経済ばかりを考える考え方ではなく、環境にやさしいことであるかどうか見方を変えて政治を行ったらいいと思う。13歳の私が言っているのか分からないけれど、国にやさしい政治は世界にやさしい政治でありたい。それを世界中の人々が実行すれば大気汚染や地球温暖化も止まるのではないかなと私は思うのです。





優良賞

あたりまえを考える

名張市立赤目中学校 3年
おかまつ 里奈

「試合に出られることはあたりまえじゃない。あたりまえのことは何もない。」

私は部活でこんな話を聞きました。確かに私の学校の剣道部は他中と比べて部員が少なく、3年生になっても試合に出られない人もいます。1年生でも試合に出場することができます。その点ではとても恵まれていると思います。

また、「だからこそ、あたりまえのことを普通にやろう。あたりまえの反対はおかげさま。」と教えてもらいました。しかし、その時はまだ少し遠い感じがしました。

みなさんは、あたりまえとおかげさまの意味がはっきり分かりますか。私は少し分かりづらかったので辞典を開いて調べてみました。まず、あたりまえの意味は、「道理上、そうあるべきこと。当然。」あるいは「特に変わったところがないこと。普通。」とありました。反対におかげさまは「人から受けた恩恵またはある物事などによる結果を丁寧な言い方にしたもの。」とあります。つまり、今あることは特別なことであり、そのことに感謝することがおかげさまの心なのです。おかげさまを感じることで自然と感謝する気持ちが生まれました。

その感謝の気持ちからあたりまえのことを普通にすることにつながると思います。あいさつをさわやかにする、スリッパをそろえる、心を込めてそうじをするなど小さな子供でもできそうなことですが、しっかりやれば自分にとってプラスになると思います。その一例が時間を守るということです。時間を守る人は信頼されます。感謝の気持ちは多くの利益を生み出すことがわかりました。

しかし、私があたりまえのことは何もないということに深く気づいたのは3年生になってのことでした。別れの季節、一緒に苦楽を共にし、お世話になった先生や先輩方がいなくなり、最高学年となって、団体を組めない学校もあった中で5人で戦えたこと、全員でやりきれた稽古、ほぼ毎日剣道ノートを見てもらったことなどあたりまえじゃない毎日で本当のおかげさまの気持ちに気付きました。東日本大震災などで稽古したくてもできない人もいます。こうして部員が集まって稽古できることの有り難さが感じられました。

徳川家康の言葉に「不自由を常と思えば不足なし」というのがあります。不便なく何事も上手くいっている生活を日常と思えば、自分の思い通りにならないことがあると不満を募らせてしまいます。あたりまえの気持ちです。けれども、不自由なことが普通だと思えば不満は生まれず、満足なことにはおかげさまの気持ちが生まれるのです。

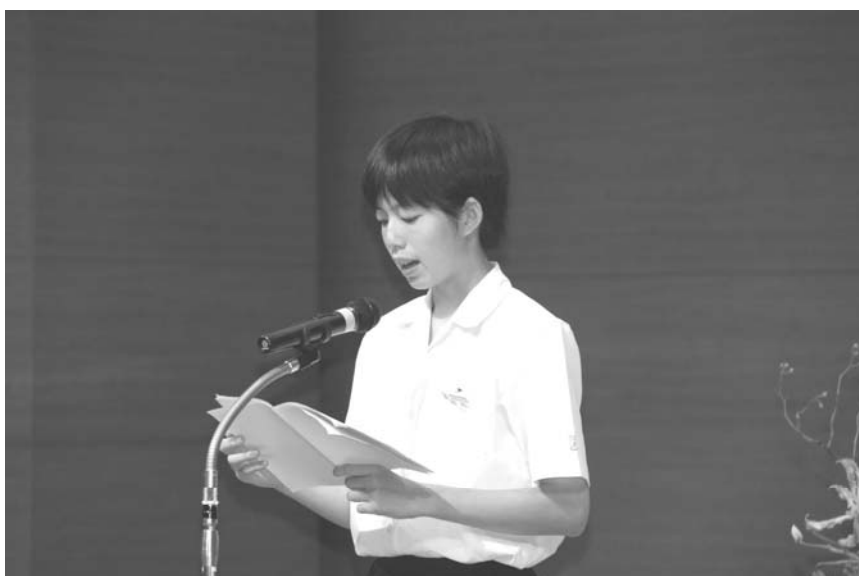
● 部活動や学校外活動	剣道部
● 好きな科目	英語
● 好きなことや好きなもの	読書・ランニング
● 将来の夢	警察官

私は部活で、今年度も仲間のおかげで人数ギリギリですが団体が組めます。部活だけでなく学校生活も充実していて楽しいです。私はおかげさまの気持ちに気づいたことで、前の自分より少し成長できたと思っています。古代中国の哲学者、老子の言葉には「足ることを知る者は富めり。」とあり、この成長を態度や行動にも表していこうと思います。

学校や社会でも、このあたりまえの考え方をみんなで無くしていけばもっと思いやりがあふれるでしょう。自分の主張だけでなく、周囲を見わたせばきっとよくなります。特に今だ続く領土問題は両国が「この土地はうちの国のものであるのがあたりまえだ。」と思っているから解決しないのです。客観的に判断してみると解決の糸口が見つかります。

私はこれから感謝の気持ちを自分から積極的に表せるようになりたいです。誰かを待つのではなく自分で行動することが大切だと感じました。そして、これから先、頭ではわかっていても多分不満に思うことがあると思います。そんなときは向上心を胸にしっかりと努力していける人でありたいです。口で言うのは簡単ですが、有言実行できるようにがんばってみたいです。

おかげさまの心もち、人に感謝して人に信頼される人間になりたいと思いました。





優良賞

祖父が教えてくれたこと

いなべ市立員弁中学校 3年
たけなか ねお
竹中 新生

この春休みに、僕は祖父のお骨おさめに行った。お骨おさめを終えると祖母は、
「おじいさん、よかったね。」
と、ほっとした顔で言った。僕は
「じいちゃん、ありがとう。」
と、心の中で何度も思った。

僕は、ものすごく「おじいちゃん子」だった。僕は小さい頃から、いろんなことを祖父に教えてもらった。自転車に乗れるようにと、自転車の荷台を支えて僕と一緒に走ってくれた。うまく乗れなくて転ぶ僕を励まし、乗れるようにしてくれた。将棋をするときにはいつも僕を勝たせようとハンデをつけて勝負をしてくれた。僕はいつも負けていて祖父にあたっていたのだが、いつもにこにここと祖父は僕のそばで笑ってくれていた。

祖父が体調を崩してから、あっという間に具合が悪くなり、そうなるとうまくなることはもうなかった。入退院を繰り返していたが、ある時からもう家で寝ているだけになってしまった。それでも僕は祖父の寝ている部屋に行き、学校から帰ると学校での出来事をしゃべった。体の調子が良くないためか、祖父からの返事は日に日に少なくなっていったが、それでも僕は毎日学校から帰ると、
「ただいま。」
と祖父に声をかけに行った。

看護師さんが訪問看護に来てくれ、病院の先生も往診にきてくれたが、だんだんと祖父は返事をするができなくなっていった。それでも僕の家族は一生懸命に祖父を生かそうと看病をした。夜は交代で眠り、いつも誰かが起きて祖父の様子を見た。僕や姉は祖父の部屋にいき、祖父に毎日声をかけ、祖父の部屋で宿題をした。家族は必死に看病を続けた。

しかし、その日は突然やってきた。

冬の日の早朝、僕は母に大きな声で呼ばれた。それだけで、僕には何が起こったのかがわかった。僕は飛び起きて階段を下りて祖父の部屋にはいった。看護師さんが

「最後まで耳は聞こえるからね。声をかけてあげてください。」

と言った。僕は何度も何度も

「じいちゃん。じいちゃん。」

と叫んだ。体もゆすった。家族は大きな声で何度も祖父を呼んだが、祖父は返事をする事なく、みんなに看取られて旅立っていった。僕は、大きな大きな声で泣いた。

祖父が亡くなり2年が過ぎたが、僕は寂しくなると今も祖父に色んな事を尋ねる。これまでもわからないことや悩んだ時には祖父に聞いてきたように、声に出して聞いている。

「じいちゃんなら、どうする？」

すると、もう一人の僕が

● 部活動や学校外活動	バスケットボール部（キャプテン）
● 好きな科目	国・数・社・英・理・音・体
● 好きなことや好きなもの	バスケットボール
● 将来の夢	テレビ番組制作者

「それは、したほうがいいなあ。」

と、祖父の言いそうな事を答えるのだ。祖父の死は悲しいが祖父が僕の中からいなくなってしまったのではないと思う瞬間だ。祖父とはもうしゃべることは出来ないが、僕の中には今までと同じように祖父はいるのだ。

祖父が亡くなったその日から、僕の心の中で大きくかわった事が二つある。一つ目は、「死」という言葉の意味を深く考えるようになったことだ。それまでは簡単に、「死にそうなら疲れた。死にそう。」

と使ってきた。僕は少しのことを大きく表現するために「死」という言葉を使っていた。

しかし、祖父の死を目の前で見たことによって、死とはそのように簡単に言ってしまうものではないとわかった。もっと何か大きくてもものすごく怖く、何もかも飲み込んでしまうような恐ろしいものなのだ。そして、亡くなった祖父にとってはとても痛いものなのだ。

姉もこれまでは

「死ぬ気で勉強する。」

と言ってきたが、この祖父の死を境に大きく変化し、言わなくなった。

「死ぬなんて、大変なことや。そんな気で勉強するなんてできるわけがない。」

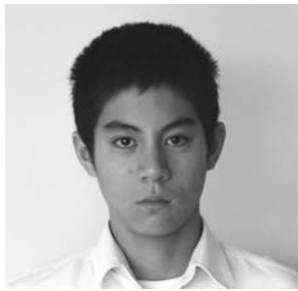
と、姉は言うようになった。それほど僕たち家族に、死というものの怖さを祖父は自らの死をもって教えてくれた。僕はこれからも、この祖父が教えてくれた「死」という言葉の意味を忘れずにいたいと思う。

もう一つは「生きる」という事の大切さだ。

祖父が最期を迎えるまでに僕の家族は、祖父を生かすために、本当に一生懸命だった。僕はそれを目の当たりにして、生きるということは大変であり、とても大切なことなんだ、ということをもっと知った。生きるということは、生きている本人にとっても周りにとっても、本当に大切であり嬉しい事なんだ。

僕はこれから祖父の分まで生きようとか、そんな風に思っているわけではない。ただ、僕は、祖父に最後に教えてもらった「死」と「生」のことをいつも胸に抱き、これからも一生懸命に、僕自身が生きていかなければならないと思っている。





優良賞

広げよう 伝えよう 鈴鹿のお茶

鈴鹿市立鈴峰中学校 3年

たなか しょうへい
田中 翔英

鈴鹿の「かぶせ茶」は全国有数の産地で市の特産品です。私の祖父母は、そのかぶせ茶を40年以上生産し続けています。そして、私達の住んでいる鈴峰地域は、製茶業が盛んな町です。5月の初めから10月末頃まで気ぜわしく緑のお茶畑で働く人達の姿が、見られます。鈴峰地域は温暖な気候と西部大地の黒ぼく土壌の耕地条件が茶栽培に適していることから今でも伝統的な鈴鹿のお茶が受け継がれています。しかし、近年畑で働く人は高齢者が多く、私の祖父母も後継者がいなくて75才近くになっても必死で鈴鹿のお茶を守りぬいてくれています。

5月、新茶のかき入れ時、私達は、一家総出でお手伝いをします。どこの畑でも子供の姿や若い人達の姿がたくさん見られて、にぎやかになります。また、鈴鹿は外国籍の方々が多く住み、この時期になると色々な国籍の方がアルバイトに来てくれます。私の祖父は、「どんどん年をとり足腰が痛くなってもお茶作りを続けていけるのは、たくさんの方が助けてくれるからだ。人の助けがないと続けていけない仕事だ。」と話しています。

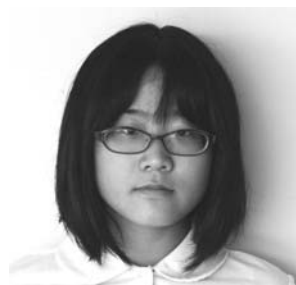
私は毎朝、食後に急須で入れた緑茶を飲んで学校へ行きます。とてもおいしいです。そのお茶がたくさんの人に助けられ作られたお茶だと思って感謝して飲むようにしています。しかし、最近ではお茶を飲む習慣が少なくなり急須を置いていない家が多くなってきています。私はお茶畑に囲まれた家に住み、新茶の季節になると工場からただよってくる香りや新芽を刈り取る機械の音に囲まれて生活をしています。毎日、当たり前のようにお茶を飲んでいますが、お茶離れが多くなりつつある事を知りとても残念です。

祖父母たちが守ってきた鈴鹿のブランドの伊勢茶を守り続けていくためには、お茶の良さをどんどん広め、お茶作りのやりがいをPRしていくことが大切だと思います。5月30日に「お茶どころ鈴鹿」をもっとPRしようと「鈴鹿抹茶ブランド研究会」が行われました。その行事によって「鈴鹿抹茶」を使用したお菓子などの新商品を開発しました。そのことにより、鈴鹿のお茶をみなさんに知ってもらうことができ、お茶を使ったお菓子を広めることができました。さらに私は、各学校でお茶の入れ方の講座を開いて和菓子をふるまったり工場見学や茶摘み体験をしたりして、お茶に親しむ活動に取り組んではどうかと考えています。また、インフルエンザ対策として学校で取り組んでいる「お茶うがい」の効果やお茶を飲む健康効果を広め、お茶の良さをたくさんの人達に理解してもらう事が出来たらと思います。

● 部活動や学校外活動	野球部
● 好きな科目	英語
● 好きなことや好きなもの	野球
● 将来の夢	学校の先生

私は小学校のころから祖父母たちと一緒に畑に出てお茶の刈り取りの手伝いをしています。茶畑に遮光ネットをかぶせる手間や真夏の炎天下での作業はとても大変で、家族や地域の人達が一丸となって支えています。また良い茶畑を育てていくための世話や収穫前の霜の心配など刈り取るまでの苦労がたくさんあることを祖父母から教えてもらいました。しかし、そんな苦労はおいしい良質な新茶が出来上がった時、喜びに変わるそうです。私はたくさんの人達にこの鈴鹿のお茶を味わってほしいと思っています。そして、鈴鹿山脈のふもとである鈴峰地区の緑の茶畑の風景がこれからも続くように、若い私達にもできることを探していきたいです。





優良賞

私と認知症の人と社会のしくみ

四日市市立桜中学校 2年

たばた ももこ
田端 桃子

私の祖父は、認知症です。前は、口数は少ないけれど、いつもにこにこしていて、手先が器用でいろいろな小物を木材で作ってくれる人でした。

2年前、祖母が骨折して入院した日をきっかけに、突然人が変わったようにいつも怒っている人になってしまいました。

私の家だけではなく、ケアマネジャーのところや、祖母が入院している病院にも怒鳴りつけるような電話を四六時中かけたり、火の始末がちゃんとできなくなり、オーブントースターでおもちを皿にのせたまま焼いておもちも皿も焦がしたりするようになりました。

昼夜問わず、夜中の2時や3時にも電話をしてくるようにもなりました。通話が終わったと思ったら、10分ほど後にまたかかってくることもありました。しかも祖父はなかなか電話を切ってくれず、一回の通話時間がすごく長いので、みんな疲れて、ときどき電話を無視せざるをえないようになりました。けれど、それでもまだかかってくるので、夜中は電話線を切っていたこともありました。

今は、祖父の面倒を見ることができないので、老人ホームにあずかってもらっています。

祖父はいつも家に帰りたと言っています。老人ホームの職員さんが手におえないほど、怒鳴っているようなときは、家に電話がかかってきます。私も何回か電話の相手をしました。つい先日も話しました。祖父は、「こんな監獄みたいなところにいたくない。早く帰りた。」と言っていました。そして、「自分がそっちに帰るのは嫌か。」と聞いてきました。私は「嫌じゃないよ。」と答えましたが、私や家族の気持ちを優先した、「帰ってきてほしくない。」という気持ちと、祖父の気持ちを優先した、「家に帰ってもいいよ。」という、二つの気持ちがぐちゃぐちゃになりました。

認知症の老人について、こんなニュースがありました。2013年8月、認知症の男性が線路内に立ち入り、列車事故で死亡し、その男性を介護していた家族に対し、名古屋地裁は損害賠償命令の判決を出しました。

このニュースは他人事とは思えませんでした。なぜなら、いつも帰りたという祖父の気ばらしに、老人ホームの職員さんがついてあちこちと、散歩に行っているからです。

この判決では、介護をしていなかった男性の子どもには賠償責任がないということです。日常、大変な思いをして介護していた男性の家族だけが責任を問われるというのはおかしいと思います。わざわざ大変な介護をして、苦しい思いもしたのでしょう。なのに、事故をし

● 部活動や学校外活動	美術部
● 好きな科目	国語・数学
● 好きなことや好きなもの	絵を描くこと・読書
● 将来の夢	絵にかかわる仕事をしたい

たら賠償責任を負わなくてはいけない、しかも自分だけ。そんなのは絶対おかしいです。介護をしなかったら赤の他人というわけがありません。

この判決では、認知症になった人には関わらないほうがいい、というようにしか考えられません。認知症の人は他人任せにしたほうがいいのか、という考えになってしまいます。

このような事故を防ぐには、鍵をかけて閉じこめておくしかないというようにもとらえられます。散歩に行きたいと言っても、家に帰りたいと言っても、事故をおそれて外にださないのがいいというのでしょうか。

まるで、認知症の老人には人権がないみたいではないでしょうか。

そんなわけありません。この事件の判決はおかしいと、中学生でも分かります。それなのになぜ、そんな判決になってしまったのでしょうか。

これから高齢化社会がすすみ、認知症の人もきっと増えると思います。認知症の人も、その家族も安心して暮らせるような社会になってほしいです。

その為に、私には何ができるのでしょうか。「祖父に優しくしたい。」「祖父の気持ちを考えて行動したい。」つまりは祖父の希望通り前に住んでいた家に帰してあげることですが、ずっと一緒にいて面倒を見てあげられるわけじゃないし、今の状態ではできません。

私にできることはなんだろうと考えてみても、どうすればいいのかわからないです。これから祖父に接していく中で、私ができること、すべきことを見つけたいです。





優良賞

人に頼るって？

津市立朝陽中学校 3年
にしかわ ゆき
西川 有紀

『人に頼るってなんだろう』私はこの春、とても大切なことを学びました。

小さな頃から人に頼ることが苦手だった私。“自分でできることは自分でする”、それが自分の中でのルールみたいなものでした。家では、

「甘えるのが下手やな」

と、よく言われました。そんな私のお母さんの口癖は、「人に迷惑をかけたらあかんよ。」いつしか私は、『人に頼る』ことまでも、“人に迷惑をかける”ことだと感じるようになりました。

今年の4月中旬、部活中に私は、左足首骨折・靱帯断裂というけがをしました。思いっきり締めつけられているようなはげしい痛みでした。『再来週試合やのに』、『ただのねんざやと信じよう』。そんなことがグルグルと、私の頭の中で渦巻いていました。気がついたら、私の目からは、ボロボロ涙が出ていました。

次の日、病院へ行くとすぐに入院することになり、3日後には手術をすることになりました。不安に思った私は、そばにいてくれた看護師さんに、

「夏の大会には間に合いますか。」

ときくと、

「あと3ヶ月やろ。ちょっと難しいかな。」

と、言われました。色んな思いがこみあげてきて、私の目からはまた涙がこぼれました。

それから3日後、手術は成功し、退院できました。学校に通えるようになると、すぐに修学旅行でした。とても楽しみにしていた修学旅行でしたが、正直、複雑な思いがありました。

自分一人できないことも多くて、3日間も友達に迷惑をかけてしまうと思うと、不安でした。いろんな人から、

「骨折しての修学旅行も、いい思い出になるんじゃない。」

と、よく言われました。私はそんなこと、これっぽっちも思えませんでした。

一人で移動することが困難だった私は、車イスを使うことになりました。『そんなに気を遣わなくていいのに』『私のせいでみんなに迷惑をかけるなら自分なんかおらんだったらいいのに』と、心の中の私は言うのでした。私は気を遣ってくれるみんなに、「ごめん」「すいません」と、言いました。見学をする時も、何をするときも、心の中の私は笑顔にはなれませんでした。

● 部活動や学校外活動	女子バレーボール部
● 好きな科目	国語・体育
● 好きなことや好きなもの	バレーボール・ソフトバレー・犬と遊ぶこと
● 将来の夢	幼稚園の先生

修学旅行1日目。友達とおみやげを買うためにお店に入ろうとした時、私は、友達に迷惑をかけてしまうと思い、入口の近くで

「ここにおるわ。」

と、言いました。すると、友達は、

「気を遣わんでいいよ。」

と言ってくれました。その言葉は、心のドンヨリもやもやした私の気持ちを楽にしてくれました。私は、勇気を出して

「ありがとう。」

と、精一杯の感謝の気持ちをこめ言いました。すると、心がポカポカして笑顔になりました。

頼ることは難しいけど、とても温かいことだと感じました。私はこれから、家族や友達と助け合いながら成長していくことを目標に支えて下さった方々への感謝の心を忘れず、少しずつ頼ることに挑戦していきたいです。





優良賞

高齢者の方について

いなべ市立北勢中学校 3年

まつば ゆうな
松葉 優奈

私が普段疑問に思うのは、高齢者の方に対する周りの人の考え方です。私がこの事について疑問に思い始めたのは、中学校1年生の時、友達と遊園地に行ったことがきっかけでした。遊園地に入るためには入場券が必要です。お金を払って買う入場券の値段が、私が行った遊園地では、年齢によって違いました。高齢者の方は「シニア料金」という名前で値段が表示されていました。でも、私が乗った乗り物の中にはいくつか「60歳以上の方はご遠慮願います」などといった年齢制限のあるものがありました。これに対して私は、何故60歳以上の人は乗ってはいけないのだらうと思いました。危険だからという考えがあったのかもしれないけれど、60歳以上の人は危険と決めつけてしまうのは違うと思います。60歳以上の人も元気な人はたくさんいるし、危険な状態になる可能性があるのは、60歳以下の私たちでも同じです。楽しむために来たはずなのに、乗りたいものに乘れなくて、楽しめなくなってしまうかもしれません。自分で危険を判断し、楽しむことができたらいいいのに、と思いました。

そして、私も高齢者の方に対して誤った考え方をしてしまった場面があります。それは、お正月に買い物をしていた時のことです。好きなお店の福袋を買いたくて列に並んでいた時、前に並んでいたのが60歳前後くらいの男性でした。私はその時、周りは若い女の子ばかりなのに、なんでこの人は並んでいるんだらうと思いました。だけど、後から考えてみると、並んでいいのは若い女の子だけ、というきまりはなかったし、ただ周りが若い女の子ばかりだったからといって、そんな事を思うのは間違っていると思いました。

そんな中で、高齢者の方には優しくする、というような考え方があります。でも、私はそれを実行することは難しいと思います。電車やバスでは、妊婦さんや高齢者の方を優先する優先席があります。妊婦さんに席を譲るのはすぐにできます。お腹を見れば妊婦さんとわかるからです。それに対して高齢者の方は、見た目だけでは判断できず、声をかけたら嫌な気分になってしまうかもしれません。そう考えると、声をかけることにとまどってしまい、なかなか実行できないのです。でも、この前バスに乗った時、「次のバス停で降りるのでよかったらどうぞ。」と言って席を譲る女の人を見ました。確かに、何も言わずに「どうぞ。」と言うよりも、「次で降りる。」のような理由があれば、気分を悪くさせることも少なく、自然に席を譲ることができます。実行することは難しいと思っていた私にとって、この出来事はとても勉強になったし、これなら私も実行できると思いました。

● 部活動や学校外活動	吹奏楽部
● 好きな科目	数学
● 好きなことや好きなもの	読書・部活
● 将来の夢	看護師

高齢者の人口が増加している現代の社会では、どれだけ高齢者の方が便利で安心して暮らせるのか、たくさんの人が考えることが大切だと思います。学校から帰ってくるとき、真っ先に「おかえり。」と声をかけてくれるのは、いつも地域の高齢者の方々です。

こういった高齢者の方が少しでも毎日を元気に、そしていきいきと生活できるようにどうしたらよいかを考え、実行していくことができるのは私たちです。そのために私は、気付いたことから積極的に実行していき、それを周りの人に広めていけるように頑張りたいです。その頑張りが少しでも役に立つことができれば嬉しいです。





優良賞

携帯について思うこと

熊野市立有馬中学校 1年
みなと 湊 まゆ 真優

私の友達に、携帯電話やタブレットを持っている人が何人もいます。その中で問題が起きた事も何度かありました。でも私は携帯を持ってないから、なんで目の前にいる人と直接話さないのか、見た事も話をした事も無い人と友達になるのか、好きで一緒にラインやメールをしているのにケンカになるのか、よく分かりません。

テレビなどで高校生ぐらいの人達がラインを使って友達の悪口を書いたり、それが悪化して、自殺に追い込んだというニュースを何度か見た事があります。ライン以外にも、にせのサイトを使って、お金をだましとったりする人もいるし、携帯を使うのがすごく怖いという事の分かっていない子供にまで携帯を持たせている親もいます。

それに、大人も携帯を使うときのマナーを守らずに、周りの人にめいわくをかけている時があります。

例えば、歩きながらスマホをしている人がいます。もしその人の横を目の不自由な人が通ったら、わざとでなくても事故になる可能性があります。たとえ周りの人にめいわくがかかっていないと思っても、自分が気づいていないだけで、めいわくだと思っている人はいるし、もしけがをさせてしまったら、困るのは、自分だから、もっと周りの人の事を考えて行動できるように気をつければすこしは良くなると思います。

でも、なぜ人間はこんなにも携帯を使うようになったのでしょうか。昔は電話なんてなくても、手紙でよかったし、子供も、外で友達と遊んでいたのに、今は、手紙や会って直接話をするのではなくメールやラインで人と話をしたり、家の中に閉じこもって一人でゲームをしている人が増えてきています。こんな生活をしているといつかは、携帯が手ばなせなくなります。だからスマホなどの電子機器がどんどん進化している今、一番便利で使いやすいスマホやタブレットを使う人が増えてきているのです。それに、スマホなどが普及することで、家から出られず、外との交流が出来ない人も、たくさんの人と交流出来るようになるし、より多くの情報を手に入れる事が出来るようになります。使う人によっては、世界とつながって、世界の状況を知る事のできる万能な機械です。悪い事さえしなければこの万能な機械は、GPSを使えば人を助ける事も出来るし、気になった事があれば、ほとんどの場所で、どんな時間でもさまざまな事を調べる事が出来るので自分の知識の幅を広げる道具にもなります。これを使えば、将来やりたい事も増えるかもしれないし、職業の選択肢も広がります。

● 部活動や学校外活動	吹奏楽部
● 好きな科目	理科
● 好きなことや好きなもの	音楽鑑賞
● 将来の夢	外国で、困っている人を助ける仕事

大人になれば、ほとんどの人が携帯を持つようになると思います。人によって持つ理由もさまざま、遠くにいる家族とつながりたい、仕事で必ず必要になってくるから、あるいは、ただゲームがしたいから、持っていたらカッコイイからなど色々だと思います。でも犯罪にまきこまれないように気を付けないといけないのはどんな理由でも同じだし、自分が人をだますような事をしないように、ルールを守り、人を悲しませないように、携帯の中でも、人間としての最低限のルールを守って使うべきです。そうすればすごく役に立つ道具なのだから社会に出た時、正しく使えるように、気を付けなければいけないと思います。



4 審査委員の講評（順不同・敬称略）

【審査委員長】 齋藤 彰一（みえ次世代育成応援ネットワーク 前代表）



8月23日(土)に開催された「中学生のメッセージ2014」(第36回少年の主張三重県大会)には県内から58校(昨年対比4校増)、10,351点(昨年対比2,563点増)に及ぶ作品が寄せられ、最終選考で選ばれた14名の皆さんに発表していただきました。10名の審査委員が作品を読んだ第一印象は「今年はレベルが高い」ということでした。テーマも学校や家庭での出来事にはじまり、高齢者のこと、人種差別問題、政治経済、スマホやラインの正しい使い方に至るまで多岐に亘っていましたが、どの作品も内容がしっかりしており、ほとんど差が感じられなかったことから「発表の仕方がポイント」だと思い、緊張して発表の場に臨みました。

厳正な審査の結果、最優秀賞には東員町立東員第二中学校2年の出口緑彩さんが選ばれました。出口さんは「『自分なんて・・・。』と思わないで」というテーマで中学生が陥りがちな「自分は誰からも必要とされていないのではないかとすればもうどうでもいい」といった意識や、悩みが深まって自殺に追い込まれるケースもある中、友人の言葉に救われたこと、そして室長としてクラスの一人ひとりが輝くように努力している姿を明るく、表情豊かに発表し、聴き手を魅了しました。単に原稿を読むだけでは聴衆に訴える力は生まれません。その点、出口さんは「伝える力」を発揮したと思います。出口さんは「少年の主張全国大会」の出場候補者として中部・近畿ブロック選考会に推薦されますが、三重県代表として是非とも頑張してほしいものです。

優秀賞の3名の皆さんも立派な発表でした。津市立久居東中学校3年の森本樹君は『「Japan」から「日本」(ニッポン)へ』という印象的なテーマを掲げ、国際的なPR戦略としての「Japan」、私たちが普段使っている「日本」(ニホン)に加え、差別をせず、伝統や文化を、日本人の心を重視する「日本」(ニッポン)を創ろうと訴え、原稿にとらわれないスピーチでした。桑名市立陽和中学校2年の加藤志門君は彼のおじさんが自閉症でいろいろと苦労することが多いけれども、家族全員で「おじ」(おじさんのあだ名)を支える様子を明るく表現していましたし、四日市市立笹川中学校3年の中川嵯貴さんは顔の见えない相手とラインやツイッターでコミュニケーションをとっている状況を例示したうえで、顔の見える人間関係、友達関係を築くことが大切と説いていました。優良賞のなかでは東員第二中学校2年の安藤舞さんの作品が心に残りました。人類の永遠の課題ともいえるべき人種差別問題を自身の保育園当時のエピソードを交えながら説得力ある話し方で発表していました。

中学校時代は心身ともに大人になるための大切な3年間です。いろいろな事に興味を持ってほしいのですが、自分の関心事を文章にしてみる、それもパソコンではなく「手書き」をお勧めします。日記をつけるのも一法でしょう。社会人になるとほとんどの作業がパソコンで処理されるので、手書きのチャンスはなくなってしまいます。また今年も発表の巧拙で結果に差ができてしまいました。いかに素晴らしい文章でも聴く人に感動を与える発表にする

ことはなかなか難しいことですが、そこで先生方にお願ひがあります。せっかく生徒たちが努力して完成させた作品ですので、発表のテクニックを指導してあげてください。原稿を見ながらの「朗読」はこの大会の場合聴く人の心を動かすことはできないと思います。文章についても誤字脱字や、句読点のつけ方が間違っているケースがありました。事後でも結構ですので丁寧に直してあげてください。私は審査委員としては2年目ですが、昨年に引き続き清々しい気持ちになれた一日でしたし、三重県の明日を担う人材は豊富だと感じた次第です。

また今年の大会は大変盛り上がりました。運営には桑名地区の中学校が全面的に協力してくれましたし、正和中学校吹奏楽部の素晴らしい演奏や第33回三重県大会で最優秀賞を受賞した王峰吉さんの感動的なスピーチも大会に花を添えました。地元自治会のご協力や多くの企業・団体からのご協賛に深く感謝いたします。

三重こどもわかもの育成財団は設立10周年と伺いましたが、太田栄子理事長のリーダーシップの下、スタッフの皆さんが一丸となって子どもや若者の健全な育ちを応援しています。財団の益々のご発展と三重県の中学生の皆さんが明るく、たくましく成長されることを心より期待いたしまして私からの講評とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

【審査委員】 志田 行弘（三重テレビ放送株式会社 代表取締役社長）



＜座右の書を持とう＞

今夏の第36回 少年の主張 三重県大会に出場された中学生14人の皆さんは、いずれも甲乙付け難い立派な内容の文章と主張力のある話し方でした。私は文章と話し方の基は読書にあると常々思っています。本を通読する、多読する、何度も読み返せとよくいわれますが、みな読書のすすめです。私はこれに加えて、1冊の本を持てといたいのです。人間が一生に読める読書の量は知れています。普通の人ならば、せいぜい数百冊、数千冊でしょう。その中でいつも自分が常に何度も何度も読み返したくなる本を見つけることが大切だと思うのです。どの分野のどんな本でもいいのですが、望ましいのは自分の人生、生涯の指針を授けてくれる本に巡り合えば何よりでしょう。西欧では聖書であったり、アジアや中国では仏教書であったり、史記や論語などが読み継がれていますし、日本でも多くの古典が存在します。勿論、歴史書に限らず現代に書かれた本や小説でもかまいません。「人生に二度読む本」とか「何度読んでもいい話」等読書をすすめる書も多数ありますが、自分が生涯の友とすべき本を探すための読書というのも、また楽しからずやだと思います。読書に親しんで文章力を磨き、主張する力を高めて下さい。

【審査委員】 西 孝（三重大学社会連携研究センター 社会連携特任教授）



「中学生のメッセージ」を聞くのは今回が2回目で、原稿を読んだ段階で、よくまとまった、力が入ったものが多いこと、男子の発表者が増えたことに気付きました。期待して会場に臨んだところ、新鮮で豊かな感受性に裏打ちされた発表に接しました。本人の努力が大きいのはもちろんですが、学校や家庭での指導、アドバイスもよくされていると感じました。時間をかけ、他人の声も聞けばそれだけよくなるもので、それこそ教育、訓練の効果です。

内容は論理的で今日的な情報を踏まえ、中学生のレベルを超えるような発表が多数あり、全体に真剣味、真摯さが伝わり、好感が持てました。注文を付けるなら、口頭発表なので原稿を読むのではなく語りかける、呼びかけるようにするのが望ましいということ。あまり原稿に頼りすぎず、会場の人々に目を向けて話しかけるのだと思って壇上にあがるべきです。やってみようと思えば、諸君の記憶力なら十分できます。

【審査委員】 西城 昭二（三重県健康福祉部子ども・家庭局 局長）



審査はもちろん、「少年の主張」を生で聴くのも初めてのことでしたが、その素晴らしさを強く感じる事ができました。最終選考に残られた14名の中学生の皆さんの発表には、それぞれ立派な内容のメッセージが込められていましたし、優秀賞、最優秀賞の方々の主張はほんとうに堂々としたものでした。

また、「中学生へのメッセージ」として特別参加されていた、3年前の最優秀賞受賞者の王さんのお話には、周囲の皆さんが一様に感心されていました。

1万通を超えた応募作品の選考も含め、開催にあたり尽力された三重こどもわかもの育成財団スタッフの皆さん、ならびに当日の運営にご協力いただいた地元桑名市の中学生、桑員地区の実行委員会の皆様に心からお礼申し上げます。

【審査委員】 岡野 譲治（東員町教育委員会 教育長）



これほどまでに清々しい時間が訪れるとは夢にも思いませんでした。14人のメッセージは、審査員という立場を忘れるほど、私の心を満たしてくれました。

それは、発表者の社会事象を切り取る目の確かさ、瑞々しい感性、真摯さに触れたからでありました。さらにその真摯さは、発表者だけではなく、大会を支えてくれていたすべての中学生達から感じられました。

21世紀を迎えた今、日本の社会は、時代の大きな変化の中にあります。このような時一番大切なことは「私達はどのような社会を築きたいのか」と一人ひとりが意識を持つことであり、そのことをきちんと主張することであると思います。

14人の発表をお聴きして、皆さんこそが、三重県の将来、日本の将来を切りひらいてくれるであろう素晴らしい若者であると心の底から思いました。「中学生のメッセージ 2014」は、未来への明るい展望が開けた時間でもありました。誠に有難うございました。

【審査委員】 加田 普士（三重県小中学校長会 幹事/四日市市立楠中学校 校長）



ステージの上から自分の思いを人に伝えることは、想像以上に難しいものがあります。しかし、皆さんの堂々とした主張態度とメッセージ内容は深く心に響いてきました。

皆さんの主張からは、身近に起こっている出来事や問題を立ち止まって考え、問題解決に当たっていかこうとする強い決意が伝わってきました。また、家族との関わりの中で体験を通して得た切実な問題に対して、自分自身に何ができるかを問い掛け、自己の生き方を見つめていく力に感動しました。

これからも、皆さんのやわらかい心で物事を捉え、世の中の出来事や仕組みに対して鋭い視点と感性を持って提言し行動を起こしてってください。そして、未来に生きる皆さんが、誰もが豊かに過ごせる社会を形成していく担い手となることを期待しています。

【審査委員】 岡田 正史（三重県PTA連合会 常任幹事）



「中学生のメッセージ 2014」に審査員として参加させていただき感じた事は、今の自分にはない中学生だからこそ気付くメッセージに新鮮さを感じました。

全応募数 10,351 名の中より選抜されました 14 名の発表者のみなさんそれぞれに家庭の問題であったり、現代の社会的な問題等に自分なりに考え元気に発表していただきましたが、みなさん素晴らしく審査員として甲乙つけがたく悩んだ時間でした。

その中でも特に最優秀賞に選ばれました出口さんは、「自己肯定感」について中学生らしい発想に着目し相手に訴えかける発表を聴き感動を覚えました。

また、この大会を運営していただいた桑名市の中学生のみなさん・桑員地区育成市民会議のみなさん・三重こどもわかもの育成財団のご尽力に感謝したいと思います。

今後もこの大会を通じて、中学生が考え悩みそれに前向きに対応する主張をしていただく場としてさらに発展することを期待いたします。

【審査委員】 舘 まき（三重県私学協会/暁中学校・高等学校 教諭）



目を閉じて、発表者のメッセージを聴いてみる。吟味を重ねた言葉が命を与えられて会場内に広がっていく…「伝えたい」という思いが響いてくる。

14 名のみなさんの発表は、このような思いを抱かせてくれる素晴らしいものでした。自分の身近な出来事から感じたことを中学生らしい態度と、瑞々しい自分の言葉で伝える姿は、堂々として立派でした。

中学生の皆さん、これからは、視線を上げて世の中を見てください。書物やメディアから情報を得てください。そこで起きていることに関心を持ってください。大切なことは「なぜかな？」と思うことです。そして「なぜかな？」と思った疑問に自分なりの解決法を考えてみてください。意識を持ち続けることで、必ず変化は訪れます。きっとみなさんのメッセージが届き、社会に風を巻き起こしてくれることと思います。

受付から案内、進行までしっかりと進めてくれた運営スタッフの皆さんの気持ちの良い対応に見送られ、夕立の後の爽やかさとともに会場を後にしました。

みなさん、ありがとうございました。

【審査委員】 西井 達子（三重県教職員組合 中央執行副委員長）



「こんなにも自分自身と深く向き合えるのか」「こんなにも素直に語れるのか」、中学生と学びあっていた教員時代を思い出しながら、各地域代表の中学生の皆さんの声に、姿に、感動をして聞かせていただきました。

いじめなどの学校生活の中で起きている事がらや身内の介護等の問題について、中学生という年代からの発信ではあるものの、14人から溢れ出るメッセージに対し、私自身それらの当事者としてまた経験者として、身に詰まされる思いで聞いておりました。子どもたちに起きていることは、大人の社会で起きていること。同じ社会をつくっている人として共に考えていかななくてはと、改めて胸に刻みました。

聞き惚れて審査がおろそかにならないようにと大変気も遣いながらでしたが、私だけでなく多くの参加者の方たちにも、ちょっと「立ち止まって」と、考える良い機会を頂けたと思っています。14人の代表者の皆さん、スタッフとして運営に携わっていただいた多くの中学生の皆さん、ありがとうございました。

【審査委員】 水元 正（公益財団法人三重こどもわかもの育成財団 副理事長）



中学生の皆さんが今思っていること、社会に何を求めどうしようとしているのかを、自分の思いを文章にし、そして言葉で表現し訴えることにより、また自分にフィードバックされ良い連鎖反応を引き起こしています。

私は、作文を読ましていただき、またその発表を聴聞させていただき私たち大人は何を感じどうアクションを起こすのか問われているようです。

中学生のうれしい、楽しい、感動、懺悔、後悔、あふれる熱意などなどが伝わって私たちを引き込んでいったことに感動を覚え身の引きし締まるおもいでした。

作品の一つ一つをコメントすることはとてもできませんが、応募された中学生の皆さんの思いが少しでも実現できればと、エールを送ります。

5 先輩からのメッセージ（財団設立 10 周年記念として招待）

三重県立川越高等学校国際文理科 3 年

わん はおじ
王 皐吉

みなさん、こんにちは。川越高校の王皐吉です。3 年前、私も中学生のメッセージに参加させていただきました。今年は、またこういう形でこの大会に関わることができて、大変嬉しく思っています。先程、14 名の中学生の主張を聞いて、それぞれ自分の特別な思いを素直な言葉で表現していて、すごく感動しました。私だけではなく、会場のみなさんの心にもその思いは届いているはずです。

この大会を経験して、自分は何を学べたのかと振り返ってみると、私は自分の意見を言うことはすごく自信に繋がるということに気づけたのが一番大きいと思います。いろんな社会問題や身近で起っていることについて、人それぞれの発見や考えがあると思います。それを言葉にするのは、勇気が必要なことでもあるので、つい消極的になってしまう時もあるかもしれません。でも、私は、自分の思いを言葉にして、たくさんの人が共感してくれて、すごく自分の自信に繋がりました。それは必ずしも共感してもらえなくても、中学生である今だからこそ思えることや今しかないその気持ちを多くの人に発信できたことの経験は自分の自信になると思います。そして、もう一つこの大会を通じて得られたことがあります。それは、中学生の私が残した作文が、その後も私の「支え」となったことです。私の作文のテーマは感謝でした。中国から日本に来て、そこで触れた人々の優しさ。その中で学んだことは、周りの人がいてくれるから自分は自分らしくいられること。私が私らしくいられるように、支えてくれている人への感謝の気持ちを忘れずにいることが人の強さであることでした。毎日を過ごしていく中で、弱い自分に負けそうになって、つい私が本来は一番大切にしなければいけない気持ちを見失ってしまう時があります。そんな時に私が決して忘れてはいけない気持ちが込められたあの作文を思い出すことで、いつもそれが私の力となり、勇気となり、私を支えてくれました。今日、堂々と発表してくれた皆さんにとっても、この作文が自分に大切なものをもう一度思い出させてくれて、支えとなる時が来ると思います。是非、この経験を大切にしてほしいです。

最後に、私がみなさんに伝えたいメッセージは、毎日、楽しいことも壁にぶつかったと感じることもあります。でも、どんな出来事にも意味があると思います。私は日本に来て、失ったものもあれば、悔しい思いをすることもあります。でもその分、自分がそういう気持ちもわかるよう

になったので、相手の立場に立って考えることが大事だとか、周りの人に支えてもらうことが多いから、もっと感謝の気持ちを持って、周りの人たちを大切にできるようになりました。辛いこともあるから普段はなかなか気づけないことにも気づけるんだと思います。悩みも嫌なことも自分には必要な訓練であって、それを乗り越えた先には、何かご褒美があるかもしれないと思えることができたなら、もっと前向きな気持ちでいられると思います。そして、何よりも大切なのは、友達や家族、先生方への感謝の気持ちを忘れないことです。

まだ卒業してから2年ちょっとしか経っていませんが、生徒会や部活動、この大会も含めて、たくさんのことを経験して、学んで、最高の仲間と先生に囲まれて過ごせた中学3年間は私の宝物です。みなさんも、今やらなければいけないこと、今しかできないことに一生懸命取り組んで、悔いのない学校生活を送ってほしいです。



今年度は、財団設立10周年を記念して、第33回大会で最優秀賞を受賞し、全国大会で奨励賞を受賞された王皞吉さんから中学生への応援メッセージを発表してもらいました。

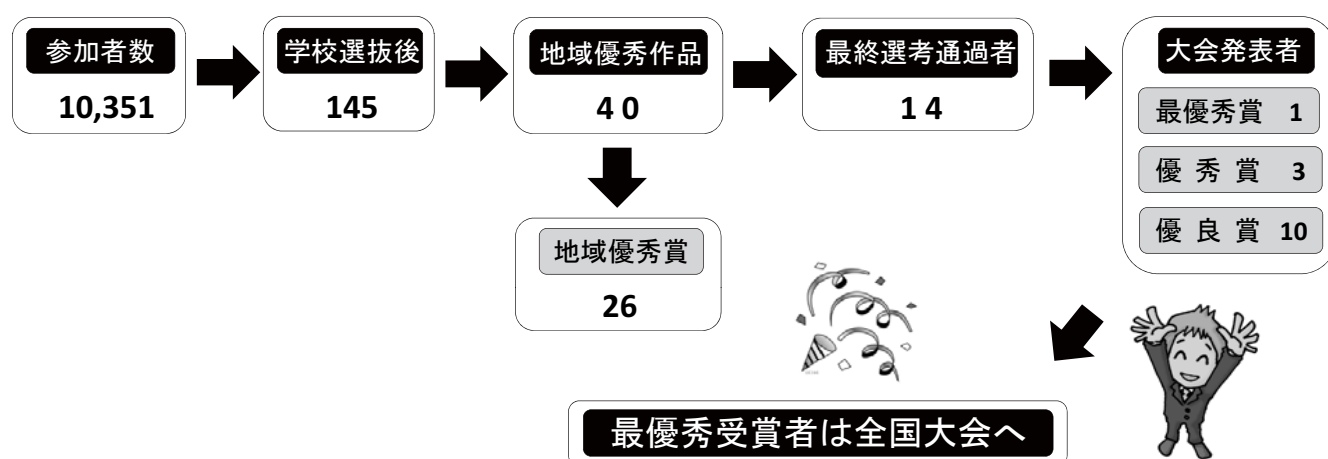
大会概要及び審査基準

1 応募の状況

(1) 応募者数

地区名	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
北勢	5,717	4,495	4,734	3,519	6,717
津	1,336	909	373	778	462
松阪	286	33	3,502	603	533
南勢志摩	293	359	290	277	247
伊賀	587	3,211	1,560	2,027	1,835
紀北	352	319	290	359	360
紀南	343	244	328	225	197
計	8,914	9,570	11,077	7,788	10,351

(2) 選考の過程



2 審査基準及び審査委員

(1) 審査基準

- 1・2は地域優秀作品審査会及び中央審査会の応募作品の審査基準、
1・2・3は三重県大会の審査基準

1. 【論旨】

- ① 鋭い感性で、新鮮な主張であるか。(中学生らしさ)
- ② 新しい情報や視点があるか。
- ③ 個人の体験にとどまらず、一般性・社会性があるか。
- ④ 提案や提言を実現・実践する意欲が感じられるか。
- ⑤ 論旨が一貫し、構成がしっかりしているか。

2. 【論調】

- ① 主張の内容が共感と感銘を与えているか。
- ② 説得力のある話し方であるか。
- ③ 話しぶりに熱意と迫力があるか。

3. 【態度】

- ① 聴衆をよく見て堂々と落ち着いて話せたか。
- ② 聴衆との間合いを意識しながら話せたか。

(2) 審査委員の皆様

審査委員長	齋藤 彰一	みえ次世代育成応援ネットワーク 前代表
審査委員	志田 行弘	三重テレビ放送株式会社 代表取締役社長
	西 孝	三重大学社会連携研究センター 社会連携特任教授
	西城 昭二	三重県健康福祉部子ども・家庭局 局長
	岡野 譲治	東員町教育委員会 教育長
	加田 普士	三重県小中学校長会 幹事(四日市市立楠中学校 校長)
	岡田 正史	三重県PTA連合会 常任幹事
	舘 まき	三重県私学協会(暁中学校・高等学校 教諭)
	西井 達子	三重県教職員組合 中央執行副委員長
	水元 正	公益財団法人三重こどもわかもの育成財団 副理事長



3 地域優秀賞受賞者一覧

No.	学 校 名	学年	名 前	タイトル
1	桑名市立明正中学校	3	竹尾 伶二郎	震災を通して考えたこと
2	桑名市立長島中学校	3	渡邊 梓穂	変化
3	いなべ市立北勢中学校	2	佐藤 美有	身近な想いやり
4	木曽岬町立木曽岬中学校	3	やまかわ 山川 姫	「平和」
5	東員町立東員第一中学校	3	みずたに 水谷 優花	「今を生きる私たちから大人へ」
6	四日市市立笹川中学校	3	あさお 浅生 萌子	思いやりで分かること
7	四日市市立富洲原中学校	3	いそだ 磯田 正寛	ウィンドブレーカーについて
8	四日市市立南中学校	2	しん 辻 華緒里	子供達から学ぶこと
9	四日市市立大池中学校	3	せこ 瀬古 達矢	「僕の決意」
10	暁中学校	3	しみず 清水 真織	家族
11	鈴鹿市立天栄中学校	3	こばやし 小林 由依	次へつなげていくバトン
12	津市立朝陽中学校	2	としい 鳥居 春花	未来の社会
13	セントヨゼフ女子学園中学校	3	にしむら 西村 も 峰	思いやりの心
14	松阪市立大江中学校	3	こまたに 駒谷 しえな	「今に感謝」
15	多気町松阪市学校組合立多気中学校	2	なかにし 中西 り お な 里 於 那	「小さい子どもたちの虐待について」
16	多気町松阪市学校組合立多気中学校	3	やまもと 山本 みく 美空	一枚の紙にも裏表
17	伊勢市立沼木中学校	3	やまもと 山本 あおい 葵	本当に大切なモノ
18	鳥羽市立加茂中学校	2	しまだ 島田 もえ か 萌加	一日中泣き続けた友の死
19	鳥羽市立加茂中学校	2	そのだ 園田 あすか	父の死と母の生き方
20	名張市立桔梗が丘中学校	3	まるやま 丸山 ゆうだい 雄大	三年間の部活
21	名張市立北中学校	3	おおやど 大宿 か 華 葉	ひとりひとりの行動
22	名張市立南中学校	3	きしだ 岸田 み お の 濤 緒 乃	不思議な笑顔
23	尾鷲市立尾鷲中学校	2	もりなが 森永 す み こ 寿 美 子	インターネットについて
24	紀北町立紀北中学校	3	にしだ 西田 夢	部活動が私に教えてくれたこと
25	紀北町立潮南中学校	3	まさた 蒔田 め い 芽 依	薬物乱用の分かれ道
26	紀北町立三船中学校	3	むらお 村尾 そう 奏	震災復興について考えたこと

4 学校奨励賞受賞校一覧

No.	学校名
1	桑名市立正和中学校
2	桑名市立陵成中学校
3	いなべ市立北勢中学校
4	東員町立東員第二中学校
5	四日市市立塩浜中学校
6	四日市市立富田中学校
7	四日市市立富洲原中学校
8	四日市市立保々中学校
9	四日市市立三重平中学校
10	鈴鹿市立平田野中学校
11	鈴鹿市立神戸中学校
12	鈴鹿中学校
13	亀山市立関中学校
14	松阪市立大江中学校
15	多気町松阪市学校組合立多気中学校
16	多気町立勢和中学校
17	皇學館中学校
18	鳥羽市立加茂中学校
19	名張市立名張中学校
20	名張市立赤目中学校
21	名張市立桔梗が丘中学校
22	名張市立北中学校
23	名張市立南中学校
24	紀北町立赤羽中学校
25	紀北町立三船中学校
26	熊野市立有馬中学校

※学校奨励賞は、積極的に応募に取り組んでいただいた学校（全校生徒の50%以上）が受賞されました。

大会メモリアル 桑名市民会館 2014.8.23



運営参加協力として大会を支えていただいた皆さん

桑名市立光風中学校
司会・デザイン画

桑名市立明正中学校
受付

桑名市立陽和中学校
案内

桑名市立正和中学校
吹奏楽演奏

桑名地区実行委員会
運営総括



藤原実行委員長から運営協力中学生の皆さんに感謝状をお渡ししました



明るい景観の大会会場



会場入口風景



運営担当の
打ち合わせも真剣です



桑員地区育成市町民会議の皆さん



会場案内もさわやかな陽和中学校

先輩から
エールを
送りました



第33回全国大会
出場者から中学生へ

今年もたくさんの感動を ありがとうございました



堂々とした司会は
光風中学校



桑員地区の力が集結した
大会となりました



会場は満員で大盛況でした



パフォーマンスにハートが温くなりました



明正中学校の皆さんは笑顔で受付担当



桑名市立正和中学校吹奏楽部による演奏

中学生への応援メッセージ

中学生へ三重県知事様、三重県議会議長様、協賛企業・団体様からあたたかい応援メッセージをいただきました

自分と仲間を信じて
夢に向かって挑戦！

三重県知事 鈴木 英敬

一度きりの人生、
自らの力を信じて切り拓け！

三重県議会議長 永田 正巳

自ら 思い、考え
行動に繋げ

株式会社ADEKA三重工場
業務課 伊藤 博也

人生は、夢だらけ。

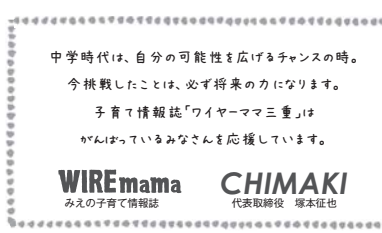
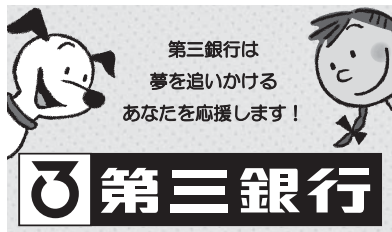
株式会社かんぽ生命保険三重支店
支店長 杉山 勝巳

明るい未来に向かって
まっすぐに進め！

桑名信用金庫
理事長 中澤 康哉

輝く未来を
応援します！

 JAバンク



君たちには 輝ける未来がある。
夢は自分の手で つかみ取ろう

株式会社津松菱
代表取締役 西村 房和

“なぜ？”と問い、そして調べる。
この好奇心が人間を育てる。

西丸之内法律事務所
弁護士 樋上 陽

頼むぞ！
未来は君たちが築くもの

公益社団法人三重県医師会

その澄んだ瞳
いつまでもきれいなままで！

一般財団法人三重県産業衛生協会
理事長 山本 重雄

色んなことに挑戦し
自分の信じた道を進もう

特定非営利活動法人三重県歯科衛生士会
会長 近田 紀子

君たちは未来の宝
健やかに育て！

一般社団法人三重県薬剤師会
会長 西井 政彦

笑顔が輝く
希望の明日へ

三重信用金庫



応援メッセージは大会当日に会場内で展示させていただきました！

協賛企業・団体紹介 ※五十音順

株式会社 **ADEKA**
三重工場

For New Technology Network
NTN

For New Technology Network
NTN
NTN精密樹脂株式会社

岡三証券
OKASAN SECURITIES

JP **かんぽ生命**
INSURANCE

株式会社ぎゅーとら

桑名信用金庫

桑名ライオンズクラブ

国際ソロプチスト三重-アイリス

JAバンク

伝える喜び、これからも
新日本工業株式会社

第三銀行

CHIMAKI
伝わるコミュニケーションで未来を創造する

松菱

TOYO TIRES
driven to perform

西丸之内法律事務所
弁護士 樋上 陽

PILOT

百五銀行
FRONTIER BANKING

(公社)三重県医師会

一般財団法人
三重県産業衛生協会

特定非営利活動法人
三重県歯科衛生士会

(社)三重県薬剤師会

三重交通

三重信用金庫

JP **ゆうちょ銀行**
BANK

ラッキータウンテレビ
105.5 TV

本大会の開催にあたり、ご協賛
いただきありがとうございました。

参 考 資 料

中学生のメッセージ 2014（第 36 回少年の主張三重県大会）実施要項

1. 目 的

「中学生のメッセージ」は、中学生が日頃感じていることや考えていることを広く県民に訴えることにより、青少年が自分の生き方や社会との関わりを考え、また、青少年に対する県民の理解・関心を深めることを目的として実施します。

2. 主 催 公益財団法人三重こどもわかもの育成財団

3. 共 催 三重県

4. 協 力 青少年育成市町民会議

5. 後 援 三重県教育委員会・桑名市教育委員会・いなべ市教育委員会・東員町教育委員会・ 木曽岬町教育委員会・三重県私学協会・三重県小中学校長会・三重県 PTA 連合会・ 三重県教職員組合・NHK 津放送局・三重テレビ放送株式会社

6. 大会期日・場所

期日 平成 26 年 8 月 23 日（土）

場所 桑名市民会館 2 階 小ホール（桑名市中央町三丁目 20 番地）

7. 応募資格

県内の中学生及びそれに相応する学籍又は年齢にあるもの。

※国籍は問わないが、日本語で発表できること。また、平成 25 年度在籍の 3 年生は応募できません。

8. 応募内容

- ① 社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案など。
- ② 家庭、学校生活、社会（地域活動）及び身の回りや友だちとの関わりなど。
- ③ テレビや新聞などで報道されている少年の問題行動、大人や社会の様々な出来事に対する意見や感想、提言など。

9. 応募方法

- (1) 1 人 1 点とし、未発表のものに限ります。但し、募集に先立ち取り組まれた作品や青少年育成市町民会議（以下、市町民会議という）等が主催する同様の大会において発表された作品は提出できます。
- (2) 提出する原稿用紙は、A4 版 400 字詰め原稿用紙 3 枚半以上 4 枚半以下で縦書きに清書してください。詳しくは、別紙 1 の原稿用紙記入方法を参照してください。
- (3) 提出された作品は、各学校等において 3 点以内に選考し、応募作品一覧（別紙 2）を添付のうえ、下記提出先に提出してください。
- (4) 提出先・提出期限
 - ・各中学校等は、平成 26 年 6 月 6 日（金）までに当該地域の市町民会議に提出してください。市町民会議は作品を取りまとめ、6 月 11 日（水）までに公益財団法人三重こどもわかもの育成財団（以下、育成財団という）へ提出してください。
 - ・市町民会議の連絡先については、別紙 3 を参照してください。

10. 地域優秀作品審査会

地域優秀作品審査会は育成財団で行い、提出された作品の中から 40 人程度を選考します。

1.1. 中央審査会

中央審査会は育成財団で行い、青少年育成関係者、学識経験者、育成財団等で構成し、提出された作品の中から「中学生のメッセージ」で発表する14人と地域優秀者26人程度を選考します。なお、発表者へは7月上旬に連絡します。

1.2. 「中学生のメッセージ」における発表及び三重県大会審査

- (1) 大会発表者は「中学生のメッセージ」において、自らの作文をもとに発表します。また作文をもとにした発表方法に加えて、パフォーマンス（写真を使用したパネル説明や小道具を使用する等）を取り入れてもよいこととします。なお、準備の関係がありますので、詳しくはお問い合わせください。
- (2) 大会当日、青少年育成関係者、学識経験者、育成財団等で構成する審査委員会で審査を行い、各賞を決定します。
- (3) 審査基準は以下の通りです。

【論旨】

- ① 鋭い感性で、新鮮な主張であるか。（中学生らしさ）
- ② 新しい情報や視点があるか。
- ③ 個人の体験にとどまらず、一般性・社会性があるか。
- ④ 提案や提言を実現・実践する意欲が感じられるか。
- ⑤ 論旨が一貫し、構成がしっかりしているか。

【論調】

- ① 主張の内容が共感と感銘を与えているか。
- ② 説得力のある話し方であるか。
- ③ 話しぶりに熱意と迫力があるか。

【態度】

- ① 聴衆をよく見て堂々と落ち着いて話せたか。
- ② 聴衆との間合いを意識しながら話せたか。

地域優秀作品審査会及び
中央審査会の審査基準

三重県大会の審査基準

1.3. 「少年の主張全国大会」への推薦

「中学生のメッセージ」の最優秀者は、独立行政法人国立青少年教育振興機構が主催する「少年の主張全国大会」の出場候補者（中部・近畿ブロック審査応募作品）として推薦します。ブロック代表者（各ブロック2～3人）に選ばれた場合は、東京都で開催される「少年の主張全国大会」において発表していただきます。

1.4. 表彰

- (1) 三重県大会の審査委員会で審査のうえ、「最優秀賞」（1人）、「優秀賞」（3人）、「優良賞」（10人）を決定し、賞状と副賞を贈呈します。
- (2) 大会発表者以外の地域優秀者には「地域優秀賞」として、賞状と副賞を贈呈します。
- (3) 積極的に応募に取り組んでいただいた学校（全校生徒の50%以上とする）に「学校奨励賞」として、賞状と副賞を贈呈します。なお、作品応募者全員には、参加賞を贈呈します。

1.5. その他

- (1) 応募作品の返却はしないのでコピーをして保管してください。
- (2) 大会前、育成財団ホームページにおいて、発表者の紹介（学校名・学年・性別・名前・タイトル）をしますのでご了承ください。同様に、大会後、大会の結果、発表作品（最優秀賞）、発表者・入賞者の紹介（学校名・学年・性別・名前・タイトル）をしますのでご了承ください。
- (3) 大会後、大会発表者の発表作品や写真を掲載した発表作品集を作成し、県内中学校や関係機関等に配付します。その他、広報誌等にも掲載することがありますのでご了承ください。

子は宝～自分の命より大切なもの

福岡県 飯塚市立飯塚第一中学校 3 年

やまもと ゆな
山本 由菜

生まれたばかりの赤ちゃんを抱き、若いお母さんが感動の涙を流す姿をテレビなどで見たことがあると思います。ここにいる私たちも生まれたことをたくさんの人に喜んでもらい、たくさんの愛情に包まれてきたはずです。ところがいつの間にか、親に反抗したり、親の言葉に耳を傾けなくなっていないですか。

私もいつの頃からか父の一言にイラッしたり、「そんなこと言われなくても分かっている。」と思うことが増えてきました。しかし、それを言葉にしたことはありません。それには、理由があるからです。

私は今、父と弟と三人で暮らしています。母は、白血病にかかり、去年、四十四歳で天国へ旅立ちました。しつけに厳しい母でしたが、たくさんの愛情を注いでくれました。私が落ち込んでいる時も楽しくて仕方ない時も、話を聞いてくれました。常に私の隣には母の笑顔があり、今でもその笑顔を思い出さない日はありません。

日が経つにつれ、入院していた母の病状は悪化していきました。とうとう自分の力では立つことも、歩くこともできないようになりました。

母は、毎日日記をつけていました。その日記は、薬の副作用の吐き気やだるさ、死ぬことへの不安など赤裸々に綴られていました。その中に「きつい。でも子供たちのために病気に勝たなきゃ。子供たちの笑顔が見たい。」と書かれてあるのを見つけました。読んだ瞬間、涙があふれました。苦しい治療に耐えながら、私たちのことを思って病気と闘っていると思うと胸が締め付けられるようでした。

私が病室を訪ねると、母はやせ細った手で私の手を握ってくれます。細い手から伝わる母のぬくもりを感じながら、あとどのくらい一緒に居れるのかと考えると、急に悲しくなり、母の前で泣いてしまいました。母も私を見て泣きました。私は、泣きながら母の涙を拭いてあげました。すると「由菜の笑顔が一番の薬だから笑って。」と言いました。私は泣きながら精一杯笑ってあげました。

それから一週間、何をしても母のことしか考えられませんでした。担任の先生から、すぐ病院に行きなさいと言われた時、今まで感じたことのない嫌な予感がしたことを覚えています。病院へ向かいながら涙が止まりませんでした。だんだんと母の体が冷えていくのが分かりました。そして、家族に見守られながら、息を引き取りました。母の心臓が止まった後も、私はずっと手を握っていました。もっと一緒にいてあげれば、もっとありがとうを言えば、もっとお母さん大好きだよと伝えれば良かったと心の中で考えながら。

母のおかげで、今まで以上に人の気持ちを考えられるようになりました。私には十四年間という少ない時間の中でしたが、たくさんの愛情を注いでくれた母がいたので、家族で協力しあいながら、今は毎日笑顔で過ごせています。母がいなくなった代わりに父が家事をしてくれています。また父も、中学三年生の娘にどう接していいのかきっと悩んでいると思います。そんな父の姿を見ると、とても文句を言ったり反抗したりすることはできないのです。父にはとても感謝しています。毎日疲れているのに必ず夕食を作ってくれます。母のような優しく包み込んでくれる愛情ではないけれど、子供や家族を守っていこうという愛情が伝わってきます。これからも母がくれた愛情を忘れずに、父と弟と三人で力を合わせて母の分まで頑張って生きていきます。

中学生にもなれば、親や周りの大人に反抗したいこともあるでしょう。だけど、あなたのその言葉や態度が愛情を注いでくれた親を悲しませたり、傷つけたりすることに気付いてください。あなたを一番近くで見守ってくれている、かけがえのない存在なのだから。

母の日記の最後の方に、こんな言葉が残されていました。「子供は宝で、自分の命より大切なものだから。」と

みなさんも親の愛情に気づき、家族を大切にしてください。



中学生のメッセージ 2014
(第36回少年の主張三重県大会)
発表作品集

平成27年2月

公益財団法人三重こどもわかもの育成財団

〒515-0054

三重県松阪市立野町1291 中部台運動公園内

TEL 0598-23-7735

FAX 0598-23-7792

E-mail ikusei@mie-cc.or.jp

毎月 第3日曜日は 「家庭の日」



平成26年度
知事賞

児童の部
(低学年)

「みんな家族だよ 生まれてきてくれてありがとう」
玉城町立外城田小学校 3年 南出 哲志さん

平成26年度
知事賞

生徒の部



「どんな場所よりあったかい」
桑名市立光陵中学校 2年 内藤 玲花さん

平成26年度
知事賞

児童の部
(高学年)



「弟の歯がぬけた」
松阪市立阿坂小学校 6年 小林 沙理さん

2015(平成27)年度

APRIL 4 卯月						
B-SUN	月-MON	火-TUE	水-WED	木-THU	金-FRI	土-SAT
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

MAY 5 辰月						
B-SUN	月-MON	火-TUE	水-WED	木-THU	金-FRI	土-SAT
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

JUNE 6 水無月						
B-SUN	月-MON	火-TUE	水-WED	木-THU	金-FRI	土-SAT
1	2	3	4	5	6	
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

JULY 7 文月						
B-SUN	月-MON	火-TUE	水-WED	木-THU	金-FRI	土-SAT
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

AUGUST 8 葉月						
B-SUN	月-MON	火-TUE	水-WED	木-THU	金-FRI	土-SAT
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

SEPTEMBER 9 長月						
B-SUN	月-MON	火-TUE	水-WED	木-THU	金-FRI	土-SAT
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

OCTOBER 10 神無月						
B-SUN	月-MON	火-TUE	水-WED	木-THU	金-FRI	土-SAT
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

NOVEMBER 11 霜月						
B-SUN	月-MON	火-TUE	水-WED	木-THU	金-FRI	土-SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

DECEMBER 12 師走						
B-SUN	月-MON	火-TUE	水-WED	木-THU	金-FRI	土-SAT
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

JANUARY 2016 1 睦月						
B-SUN	月-MON	火-TUE	水-WED	木-THU	金-FRI	土-SAT
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

FEBRUARY 2016 2 如月						
B-SUN	月-MON	火-TUE	水-WED	木-THU	金-FRI	土-SAT
1	2	3	4	5	6	
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29					

MARCH 2016 3 弥生						
B-SUN	月-MON	火-TUE	水-WED	木-THU	金-FRI	土-SAT
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

三重県では、毎月第3日曜日を「家庭の日」として、明るく楽しい家庭づくりを進めています。(三重県青少年健全育成条例)



公益財団法人 三重こどもわかもの育成財団 (三重県立みえこどもの城)

「家庭の日」 絵画・ポスター展 ホームページ http://www.mie-cc.or.jp/ikuseihp_katei/index.html